

ドクター安達の

原水禁世界大会 2013 in 長崎 参加記

2013 年 8 月 7 日～9 日

茨木診療所所長 安達 克郎

5 年連続となる原水禁世界大会への参加です。今年の長崎の大会には、開会式に 6500 人、閉会式に 7000 人が参加しました。大阪民医連の院所・協同組織からは 114 名が、茨木診療所から、飛与田、屋嘉部、私の 3 人が参加しました。寄せてくださった多くのカンパありがとうございました。

今年の大会は、昨年末の総選挙で第 2 次安倍内閣が発足し、また今年 7 月の参議院選挙でも自民・公明が過半数を占めるという国会勢力で、安倍内閣が原発再稼働、原発輸出に前のめりになり、NPT 再検討会議準備委員会で核兵器の非人道性を訴える共同声明への署名を拒否するという情勢の中で開かれました。また福島第一原発の汚染水が海に流出し続け、政府の事故終息宣言がまやかしかであることがはっきりした状況下での大会でした。

田上長崎市長は、安倍首相も出席する平和式典で、この署名拒否を「2 度と世界の誰にも被爆の経験をさせないという被爆国としての原点に反する」、また NPT 未加盟の核兵器保有国であるインドとの原子力協定の動きについても、「保有国をこれ以上増やさないためのルールを定めた NPT を形骸化することになる」、と強く政府を批判する勇気ある発言を行いました。拍手喝采です。

今年は、著名なオリバー・ストーン監督が世界大会に参加するというのでマスコミでも大きく取り上げられたようです。映像の分科会で、カズナック教授とストーン監督が監修した「もうひとつのアメリカ史」全 10 話のうち第 3 話原爆投下が上映されました。日本に来て彼が感じたのは、日本人は第 2 次世界大戦の日本の侵略の歴史をほとんど知らないのではないか、ということだそうです。ドイツに比べ日本の戦後処理にかなり不満を持っていました。彼の指摘するように私たち日本人、特に若い人たちは近現代史をもっと勉強しなければならないと思います。

7 月の参議院選挙で当選した若者のホープ、吉良佳子さん、辰巳孝太郎さんがあいさつされました。「核兵器いつなくすの？」「今でしょ！」「原発いつなくすの？」「今でしょ！」というコールはなかなか元気があっていいものです。

今年も韓国から 6 人の医療関係者が全日本民医連から招待されて参加しました。全日本民医連参加者交流会、その後の懇親会で親しく交流することができました。彼らと交流することが私の世界大会に参加する楽しみの一つになっています。

2 年後の NPT 再検討会議に向け、核廃絶禁止条約のための交渉を開始させることが当面の運動の最大の課題です。1 人でも多くの方がこの運動に参加してくださることを願っています。

2013長崎原水爆禁止世界大会 参加記

2013年8月7日（水）～9日（金）

茨木診療所所長 安達克郎

8月7日(水)晴れ

今日の診療を休むわけにいかず、午後の診療が終わってすぐ駆けつける。神戸空港から19:45発のスカイマークに乗り、長崎空港21:00着。バスで長崎市内に向かい、ベストウエスタンホテルに着いたのは22:20。2年前と同じホテルで世界大会参加者が泊まる中で一番高級なホテルである。大阪民医連・共同組織からの参加者は114名、大阪民医連交流集会には54名が参加したそう。共和会・茨木診療所からは、屋嘉部、飛与田、私の3名が参加した。

8月8日(木)晴れ

6:30起床、7:10ころ15階の朝食会場へ。同室の飛与田さん、川口くんは佐世保基地見学の分科会で8:00に長崎駅に集合とのこと。西淀川から参加の中村玉枝さんに出会う。淀協ファルマ西淀グループは36人が参加しているそう。オリバー・ストーン監督が来るという映像の分科会のチケットを持っていなかったのも早めに会場に入る。

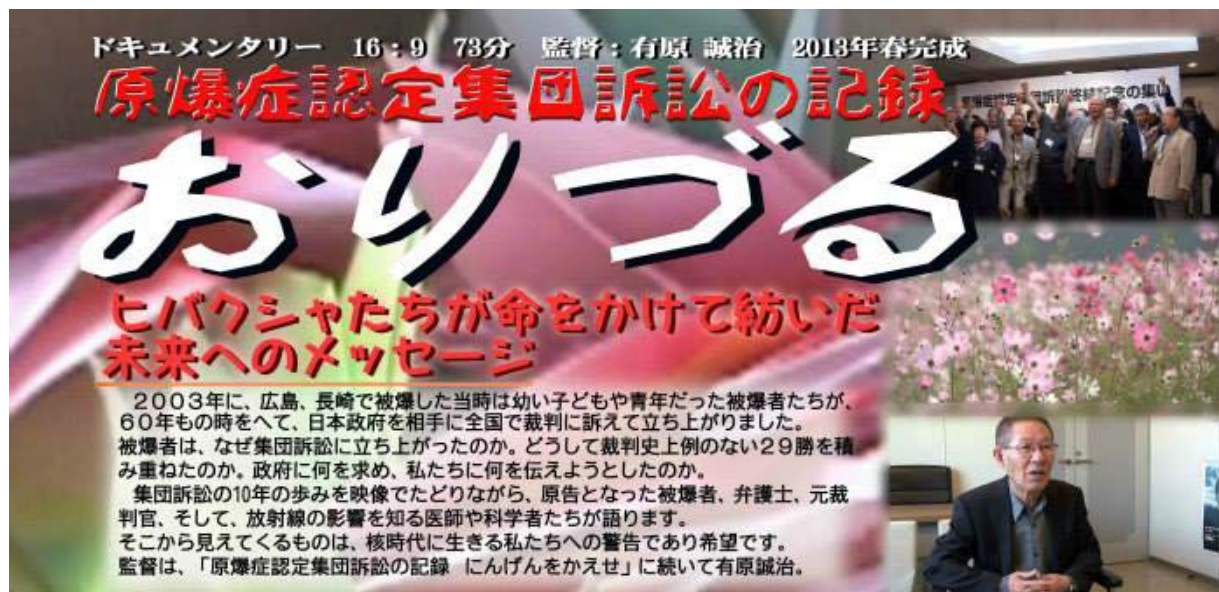
映像の分科会に参加 午前中は「おりづる」の上映

今年4月に完成した『おりづる』は、有原誠治さんが監督した原爆症認定集団訴訟の記録映画。集団訴訟の10年の歩みを映像でたどりながら、原告となった被爆者、弁護士、元裁判官、放射線の影響を知る医師や科学者が語るドキュメンタリーだ（73分）。

そういえば、4年前（2009年）にこの映像の分科会に参加した時は、同じ有原監督のアニメ『アンジェラスの鐘』だった。『アンジェラスの鐘』は、2010年NPT再検討会議でニューヨークへ行った時、カトリック系の高校で上映会をした。映像の訴える効果は特別のものがあつた、鑑賞した多くの高校生が被爆の実相を理解してくれた。



有原誠治監督



上映後有原監督の進行で、原爆症認定訴訟弁護団の宮原哲朗氏、田淵啓子氏を交え、フロアとのディスカッション。宮原氏は集団訴訟の意義にはいくつかのキーワードがあると、①怒り、②正義、③被爆実態、について述べ、まだ100件を超える訴訟が控えていると言う。

これらの集団訴訟の結果、国の認定基準を変えることができたが、悪性腫瘍を除き1.5km以外の入市被爆者については1件も認めていないそう。国との和解後、今まで22回の検討会が開かれ、今年の秋から年末までに最終結論があるので注目していきたいとのこと。



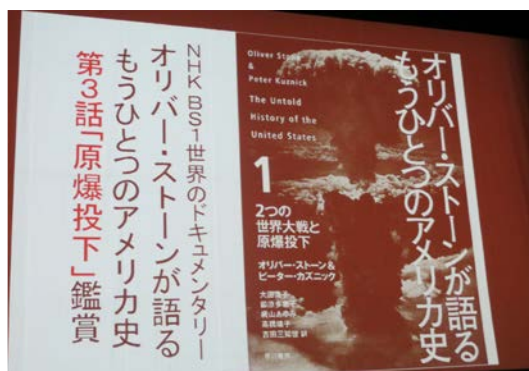
宮原哲朗、田淵啓子弁護士と有原誠治監督

田淵弁護士は、弁護士になって10数年ほとんどこの訴訟にかかわってきたと言う。『おりづる』を多くの人に見てもらい、海外の映画祭にも出品していきたいと決意を述べた。

フロアからは、黒い雨の再調査をした広島の〇〇さん、「…X年後」の上映会を精力的に実施している大阪の中村玉枝さん、原発労働者や除染作業員の被曝の問題を訴えた福島赤間さんなどから発言があった。最後に有原監督が、「おりづる」の上映を日本全国に広め、核兵器廃絶の運動を粘り強く続けていこう、と締めくくった。DVDを2000円で購入。

午後映像の分科会「オリバー・ストーンが語る もうひとつのアメリカ史 第3話 原爆投下」

定刻の13:00、NHKBS放送で幾度となく上映されたという、オリバー・ストーン、ピーター・カズナック氏が監督した、『もうひとつのアメリカ史 全10話』のうち、第3話原爆投下の上映。途中で映像が途切れるというハプニングがあったが、14:10無事終了。ほどなく、ストーン監督、カズナック教授が会場に現れる。



もうひとつのアメリカ史 第3話原爆投下

オリバー・ストーン監督、「第2次世界大戦後は、アメリカが世界の安全保障国になった。ブッシュ政権が2期続き、イラク戦争などを起こしてから、私は普通の映画はもう撮るべきではないと思った。そこで、ピーターと一緒に新しいアメリカ史をつくることにした」。

ピーター・カズナック教授、「オリバーはアメリカの典型的な保守的な家庭に育ち、ベトナム戦争時、彼は志願してベトナムに従軍した。私は左翼的な家庭に育ち、ベトナム反戦運動をしていた。オリバーはその後、政治的に革新となり、世界にこの重要な真実をつたえなければならぬと考えるようになった。ジョージ・ブッシュが私たちの生みの親です」。



オリバー・ストーン監督



ピーター・カズナック教授

質疑応答

<Q1> タイトル untold が日本ではもうひとつのと訳されている、もっといい訳がつけられなかったか？

< A 1 > 英語では私たちは untold と付けたが、unlearned も考えた。日本語訳はどうでしょうか？

< Q 2 > 大統領を動かしている軍産複合体についてもっと突っ込む必要があったのでは？

< A 2 > 1945 年終戦当時まだ軍産共同体はなかった。1961 年アイゼンハワー大統領が核の平和利用について言及してから始まった。アメリカは今やすべての分野、政治、経済、軍事、宇宙、サイバースペースにおいて支配を確立した。1965 年のベトナム戦争以後、戦争に継ぐ戦争を行ってきた。今は中国封じ込めるため、アジアにその機軸を移している。

< Q 3 > 原発について、日米原子力協定についてどう思うか？

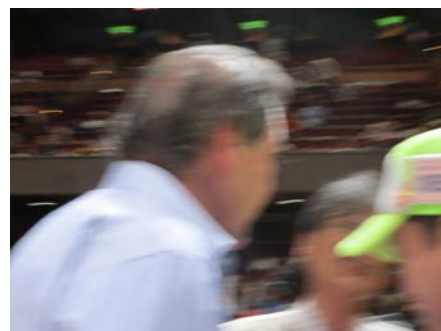
< A 3 > 1962 年アイゼンハワーが国連で平和のための原子力の利用をと演説した。アメリカは 3 万発もの水爆を持っていた。しかし、世論は核兵器使用に反対だった。特にビキニ被災以後日本の核アレルギーを何とかしないとイケないと正力や C I A などを使って原発を推進した。実は広島に最初原発を作りたいかったのです。安倍首相が再稼働をたくらんでいるが、非常に危険なことで反対だ。

など。

15 : 00 定刻に終了。池田先生は、持ってきたプラトーン映画パンフレットにオリバー・ストーン監督の自筆のサインをもらうことができ、大満足。みんなに見せてうれしそう。私もオリバー・ストーン監督のツーショットを撮ろうとしたがピンボケのボケボケ。それでも記念に載せておく。



オリバー・ストーン監督からサインをもらって喜ぶ池田先生



私のはボケボケのツーショット

夜は恒例の全日本民医連参加者交流会

いったんホテルに戻り小休憩して全日本民医連参加者交流会へ向かう。ホテルを出るところで西淀から参加の大西さんたちと出会う。彼女たちは全日本民医連の交流会に参加申し込みが間に合わず、これから西淀参加者交流会とその後の辰巳孝太郎と語ろうに行くところだという。

会場につくと、韓国の代表団がもう控室に来ているとのことであいさつに行く。ファンさんは、交流会であいさつするユ・キョンスクさんの原稿チェックと日本語の指導に一心不乱で僕に気づかない。顔見知りのイ・スジョンさんが立ち上がってあいさつしてくれ、若い人たちと名刺交換する。



全日本民医連参加者交流会には 500 名近くが参加（民医連全体で世界大会に 1176 人が参加）

17:30 開会。吉田万三全日本民医連副会長が開会のあいさつ。続いて東京から広島までの通し平和行進者、フィリピンから来たマラヤ・ファブロスさんが連帯のあいさつ。彼女は膝を痛み、1日京都民医連中央病院に入院したそう。中央病院の看護師から民医連の平和のたすきが渡される。現地長崎民医連の平野友久会長が歓迎のあいさつ。平野会長は被爆2世だそう。

続いて被爆者である長崎原爆被災者協議会の山田拓民事務局長が連帯のあいさつ、「被爆で家族全員をなくした。大学生まで自分が被爆者だということは自覚していなかった。先日亡くなった山口仙二さんから頼まれて被災協の仕事を手伝うようになった。それから20数年、日本政府のやり方は一向に良くならない。去年肺がんの手術も受けた。被害を小さく見せようという政府のやり方に怒りを覚える」。

長瀬事務局長から韓国代表团6名が紹介され、団長のユ・キョンスクさんがあいさつ。最後に「TPPはんた〜い」という日本語に拍手喝采。



吉田万三副会長



平野友久長崎民医連会長



長崎被災協・山田拓民氏



マラヤ・ファブロスさん



韓国代表团 ユ・キョンスクさんが連帯のあいさつ

乾杯の後、歓談、リレートークが始まる。現地長崎民医連から「山口仙二さんを偲んで」という2回のインタビューのDVDが上映された。わたし自身山口仙二さんのことをよく知らなかったが、このインタビューで山口さんが話す言葉に感銘を受けた。

第2部は4年ぶりの鈴木君代さんのライブ。「いつでも元気」7月号の表紙・巻頭エッセイに載ったシンガーソング僧侶さん。最後にはジョン・レノンの「イマジン」とスマップの「世界に一つだけの花」をみんなでシングアウト。私も調子に乗って万三さんと肩を組んで歌ってしまった。同仁会の穴井専務が、鈴木君代さんを同仁会のイベントに呼ぶ交渉をしていた。



シンガーソング僧侶 鈴木君代さん



韓国代表团6人の参加者と



最後は舞台上がってシングアウト

その後さらに韓国代表团と懇談・交流

民医連は韓国のさまざまな医療団体とここ 10 数年来交流があり、原水爆禁止世界大会には例年民医連が数名を招待している。今回韓国からの参加者は、ユ・キョンスク（柳敬淑）健康社会をめざす薬剤師会事務局長（薬剤師）、イ・スジョン（李水晶）健康権実現のための保健医療団体連合事務次長（薬剤師）、キム・チミン（金智敏）真の医療実現青年韓方医師会政策次長（韓方医）、チョン・ジンハン（全鎮韓）健康権実現のための保健医療団体連合政策委員、パク・チヘ（朴智叡）健康と対案研究共同体研究員（1 年目医師）と医学生 4 年の〇〇くんの 6 名（肩書はもらった名刺から訳したが、どんな団体か詳細は知らない）。

こちらは、全日本から長瀬事務局長、吉田万三副会長、事務局員の若手 2 人、同仁会から池田理事長、穴井専務、大隅さん、薬剤師 1 年目 3 人、長崎から平野長崎民医連会長、健友会の永田専務、3 年目の若い女性、私、そして日本と韓国の架け橋・通訳のファン・チャヘさん。各人が自己紹介して感想を述べる。交流会も終わろうとする頃に藤末会長が合流する。気になっていた韓米 F T A の現状を聞くと、実施は 3 年間延期されたとのこと。しかし、営利病院の申請が特区の仁川と済州島であったそうだ。最後にみんなで記念撮影。



韓国代表团との懇談・交流会 あれファンさんが映ってないなあ

つい数日前、ファンさん率いる韓国の民医連見学団 26 名が大阪にやってきて交流したばかり。ずいぶんと韓国に知り合いが増えた。

8月9日(木)晴れ

6:50 朝食会場へ。飛与田さん、川口くん、屋嘉部さんたちは、折り鶴を平和記念公園に持っていくので早めにホテルを出る。路面電車で 4 駅乗って閉会総会会場に着く。例によって海外代表席の隣の一番前に席を陣取る。海外代表の世話をしている同時通訳者の布施さんが僕に気づいて声をかけてくれる。

閉会総会

定刻 10:30 開会。

日本各地からの報告

佐世保原水協、北海道原水協、新婦人福岡、神奈川自治労連青年部、東京原水協、秋田原水協が報告。

北海道原水協の嶋田千津子事務局長は、共産党の市会議員のブログを読んだ小樽市長がアピール署名に賛同し、その後 23 市長、102 町長、15 村長、179 自治体中 140 市町村の首長賛同署名が得られたと報告。

秋田原水協の渡部雅子事務局長も秋田県知事を訪問して署名への賛同を得、知事が県職員・教育委員会へも働きかけ 400 筆近くが署名を届けて



北海道原水協 嶋田千津子さん

アピール署名賛同自治体

くれたこと、秋田の過半数を超える15市町村で「日本政府に核兵器全面禁止のための決断と行動を求める意見書」が採択されたと報告。

東京原水協は2人のよし子があいさつ。青木佳子さん、「東京から706人がこの世界大会に参加、NP
T再検討会議に向け200万の署名を集める」と決意
表明。吉良佳子さん、「私も被爆者の方の話を聞き、
広島、長崎、福島のある日本から核兵器と原発をな
くし平和な日本をつくるために国会の中で頑張っ
ていきます」。



東京原水協 青木佳子、吉良佳子の2人の佳子



秋田原水協 渡部雅子さん

11:02 原爆投下の時刻に全員で黙とう。

続いて海外代表5人が報告。

**アンドレイ・タレ布林さん（ロシア、自然保護チ
ェリャビンスク住民運動）**

ロシア、チェリャビンスク州にはマヤークという核
兵器生産のための原子炉と再処理施設があった。
1957年核爆発を起こし（ウラルの大惨事）数千万平
方キロの地域が汚染され、217村、50万人が住民が
移住させられた。2万人の住民が犠牲になった。核
兵器も原発もいらない。

ユリア・ピピグさん（ドイツ科学者連盟）：

ドイツは今から10年以内に再生エネ
ルギーへの移行を完了し化石燃料に頼
らない国になる。私が体験した原水爆
禁止世界大会の模様を子どもたちに伝
えていきたい。私たちの将来は私たち
で決めるのだと。



タレ布林さん



ピピグさん



ファブロスさん

**コラソン・ファブロスさん（非核フィ
リピン連合）：**

米軍基地撤去から20年経ったが、米
軍はアジアに機軸を移し、ミンダナオ
島に常駐している。米軍のフィリピンでの存在を許さない。

トマス・マグナスンさん（国際平和ビューロー）：

核兵器廃絶法案の案はもうできている。世界の反核勢力は核
兵器廃絶に向けでアクションを起こそう。

ジュデイス・ルブランさん（アメリカ、ピースアクション）：

プラハで核のない世界を宣言したオバマ大統領は後退して
いる。核兵器廃絶の必要性を再認識させよう。
ノーモア貧困、ノーモア広島、ノーモア長崎。



マグスヌンさん



ルブランさん

11:35 日本青年団協議会から連帯のあいさつ、山口仙二さ
んのDVDの上映。

被爆者の決意を受け 2015年ニューヨークへ 国内外の若者が決意表明

大阪青年代表団は、辰巳孝太郎議員と大阪通し行進をした堀尾晴真くん（けいはん医療生協）がいさつ。辰巳議員はこれまでも何回か世界大会に参加し、2010年のNPT再検討会議でニューヨークまで行っている、「核兵器の廃絶を綱領に掲げる日本共産党の国会議員としてみなさんと一緒に全力を尽くします」。堀尾くん、「NPT再検討会議には大阪から100万人の署名と150人の参加で、アピール署名を届けたい」。

続いて各団体の青年部からアピール。

自治労連青年部：住民の命と暮らしを守る自治体労働者として地域から運動を進める。

全教青年部：青年教職員が被爆の実相をどのように教えていくのが大きな課題。

兵庫のゼロコネット：重要なのは署名の取り組みを大きく進めること。

福島（民医連職員、小抜勝洋）：マーシャル諸島ロングラップ島の視察に行った。福島の実験を世界に発信していく。

世界の青年代表（核兵器禁止世代BANg、ジェシカ・ヘルツ）：日本の若いみなさんの発言に心を打たれた。独創的なアイデアを持ち世界の希望です。このエネルギーを持ち帰りたい。



大阪の青年代表団と辰巳孝太郎議員、堀尾晴真くん



自治労青年部



兵庫青年ネットワーク：ゼロコネット



福島の青年代表と福島民医連小抜勝洋くん



海外の青年代表 核兵器禁止世代BANg

12:10 オリバー・ストーン監督が到着。

「アメリカでは、学校で子どもたちに、日本への原爆投下は戦争終結のために必要で正しかった、と教えている。私は、保守的な家庭に育ったが、ベトナム戦争に行き、その後、なぜアメリカが次々戦争す

るのか？考え始めた。日本の敗北はすでにわかっており、原爆投下は必要ではなかった・・・。」

「歴史を学ぶことが、同じ過ちを繰り返さないこと。日本が、戦争中、中国や韓国に侵略したことも、きちんと学ぶことが大切」。

被爆2世の長崎被災協・柿田富美枝さんと長崎出身の大学生田平由布子さんとのトークでは、どのように被爆の凄惨な体験を伝えていけばいいかとの質問に答え、「たとえ本当に残酷でむごいものであっても、若い世代には真実を伝えるべきだ。今は歴史の真実の部分が取り除かれうわべだけのお話になっている。本当の歴史は心を揺り動かすものであり、エキサイティングなものだ。映画や漫画を活用するのもいい」。



オリバー・ストーン監督

安倍首相については、

「右翼的で危険な人物、原発再稼働には断じて反対。彼は、まるでヒロシマ・ナガサキの経験を学んでいないようだ」と批判した。

12:50 長崎からの呼びかけが読み上げられ、

12:55 安井和正日本原水協事務局長が、「核兵器廃絶は人類の生死をかけた死活的課題、全国すべての市町村で署名行動を広げ、被ばく者とともに核兵器のない世界を実現する署名行動を全力をあげて取り組もう」と行動提起した。



柿田さん、田平さんの質問に答えるストーン監督

13:00 海外参加者も壇上にあがり、「We shall overcome」をみんなで熱唱。私も舞台に上がる。吉良、辰巳両議員と一緒にだったので、なんとかスリー・ショットを撮る。



安井原水協事務局



フィナーレは壇上に上がって We shall overcome を熱唱



吉良、辰巳議員とスリーショット

13:20 会場を後にしてバスに乗り込む。車中参加者が一言ずつ感想を述べる。初参加者が半分ほどいたようだ。16:10 頃長崎駅の着き、喫茶店で涼をとりながら参加記を書く。17:29 発のぞみ号、車中も旅行記を書きながら、19:45 新神戸駅で降りて、21:00 無事帰宅。

核兵器なくなるまで毎年原水爆禁止世界大会に参加するつもり

世界に対して日本がしなければならないことは何か？ 放射能の被害を4度も受けた国の国民として、核のない世界を実現することが、私たち日本人に課せられた責務だと思う。核兵器が無くなるまで、毎年世界大会には参加するつもり。何回行っても学べるがたくさんある。

<資料 1>

長崎市長平和宣言〈全文〉 長崎原爆の日

68年前の今日、このまちの上空にアメリカの爆撃機が一発の原子爆弾を投下しました。熱線、爆風、放射線の威力は凄（すさ）まじく、直後から起こった火災は一昼夜続きました。人々が暮らしていたまちは一瞬で廃虚となり、24万人の市民のうち15万人が傷つき、そのうち7万4千人の方々が命を奪われました。生き残った被爆者は、68年たった今もなお、放射線による白血病やがん発病への不安、そして深い心の傷を抱え続けています。

このむごい兵器をつくったのは人間です。広島と長崎で、二度までも使ったのも人間です。核実験を繰り返し地球を汚染し続けているのも人間です。人間はこれまで数々の過ちを犯してきました。だからこそ忘れてはならない過去の誓いを、立ち返るべき原点を、折にふれ確かめなければなりません。

日本政府に、被爆国としての原点に返ることを求めます。

今年4月、ジュネーブで開催された核不拡散条約（NPT）再検討会議準備委員会で提出された核兵器の非人道性を訴える共同声明に、80カ国が賛同しました。南アフリカなどの提案国は、わが国にも賛同の署名を求めました。

しかし、日本政府は署名せず、世界の期待を裏切りました。人類はいかなる状況においても核兵器を使うべきではない、という文言が受け入れられないとすれば、核兵器の使用を状況によっては認めるという姿勢を日本政府は示したことになります。これは二度と、世界の誰にも被爆の経験をさせないという、被爆国としての原点に反します。

インドとの原子力協定交渉の再開についても同じです。

NPTに加盟せず核保有したインドへの原子力協力は、核兵器保有国をこれ以上増やさないためのルールを定めたNPTを形骸化することになります。NPTを脱退して核保有をめざす北朝鮮などの動きを正当化する口実を与え、朝鮮半島の非核化の妨げにもなります。

日本政府には、被爆国としての原点に返ることを求めます。

非核三原則の法制化への取り組み、北東アジア非核兵器地帯検討の呼びかけなど、被爆国としてのリーダーシップを具体的な行動に移すことを求めます。

核兵器保有国には、NPTの中で核軍縮への誠実な努力義務が課されています。これは世界に対する約束です。

2009年4月、アメリカのオバマ大統領はプラハで「核兵器のない世界」を目指す決意を示しました。今年6月にはベルリンで、「核兵器が存在する限り、私たちは真に安全ではない」と述べ、さらなる核軍縮に取り組むことを明らかにしました。被爆地はオバマ大統領の姿勢を支持します。

しかし、世界には今も1万7千発以上の核弾頭が存在し、その90%以上がアメリカとロシアのものです。オバマ大統領、プーチン大統領、もっと早く、もっと大胆に核弾頭の削減に取り組んでください。「核兵器のない世界」を遠い夢とするのではなく、人間が早急に解決すべき課題として、核兵器の廃絶に取り組み、世界との約束を果たすべきです。



平和宣言を読み上げる
田上長崎市長

核兵器のない世界の実現を、国のリーダーだけにまかせるのではなく、市民社会を構成する私たち一人ひとりにもできることがあります。

「政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起（おこ）ることのないようにする」という日本国憲法前文には、平和を希求するという日本国民の固い決意がこめられています。かつて戦争が多くの人を命を奪い、心と体を深く傷つけた事実を、戦争がもたらした数々のむごい光景を、決して忘れない、決して繰り返さない、という平和希求の原点を忘れないためには、戦争体験、被爆体験を語り継ぐことが不可欠です。

若い世代の皆さん、被爆者の声を聞いたことがありますか。「ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモア・ウオー、ノーモア・ヒバクシャ」と叫ぶ声を。

あなた方は被爆者の声を直接聞くことができる最後の世代です。68年前、原子雲の下で何があったのか。なぜ被爆者は未来のために身を削りながら核兵器廃絶を訴え続けるのか。被爆者の声に耳を傾けてみてください。そして、あなたが住む世界、あなたの子供たちが生きる未来に核兵器が存在していいのか。考えてみてください。互いに話し合ってみてください。あなたたちこそが未来なのです。

地域の市民としてできることもあります。わが国では自治体の90%近くが非核宣言をしています。非核宣言は、核兵器の犠牲者になることを拒み、平和を求める市民の決意を示すものです。宣言をした自治体でつくる日本非核宣言自治体協議会は今年、設立30周年を迎えました。皆さんが宣言を行動に移そうとするときは、協議会も、被爆地も、仲間として力をお貸しします。

長崎では、今年11月、「第5回核兵器廃絶一地球市民集会ナガサキ」を開催します。市民の力で、核兵器廃絶を被爆地から世界へ発信します。

東京電力福島第一原子力発電所の事故は、未（いま）だ収束せず、放射能の被害は拡大しています。多くの方々が平穏な日々を突然奪われたうえ、将来の見通しが立たない暮らしを強いられています。長崎は、福島の日も早い復興を願い、応援していきます。

先月、核兵器廃絶を訴え、被爆者援護の充実に力を尽くしてきた山口仙二さんが亡くなりました。被爆者はいよいよ少なくなり、平均年齢は78歳を超えました。高齢化する被爆者の援護の充実にあらためて求めます。

原子爆弾により亡くなられた方々に心から哀悼の意を捧げ、広島市と協力して核兵器のない世界の実現に努力し続けることをここに宣言します。

2013年（平成25年）8月9日
長崎市長 田上富久

<資料 2>

長崎を最後の被爆地に——2013年8月9日 原水爆禁止2013年世界大会

「長崎からのよびかけ」(全文)

私の顔や手をよく見てください。よく見てください。世界の人々、そしてこれから生まれてくる人々、子どもたちに、私たちのようにこのような被爆者に、核兵器による死と苦しみをたとえ1人たりとも許してはならないのであります——

(山口仙二 1982年第2回国連軍縮特別総会での演説より)

アメリカによる長崎への原爆投下から68年がたちました。

多くの被爆者が、自らの苦しみを通じて核兵器の残虐性を伝え、「核兵器をなくせ」と訴えつづけてきました。その声は世界に響きわたり、核兵器廃絶を求める世論と運動を築きあげてきました。

いま各国政府の間に、核兵器の非人道性を告発し、その禁止を求める流れが急速にひろがっています。2010年核不拡散条約(NPT)再検討会議の「核兵器のない世界」への合意の実行をせまる新たな動きです。

被爆者とともに歩んできた私たちは、被爆の実相をさらにひろげ、この流れをいっそう強めて、「核兵器のない世界」への道を切り拓(ひら)く決意です。

被爆70年であり、NPT再検討会議が開催される2015年にむけ、核兵器禁止条約の交渉開始を求める世論と運動の巨大なうねりをつくりだしましょう。

300万筆を超えてひろがる「核兵器全面禁止のアピール」国際署名の運動を、地域ぐるみ、職場ぐるみの取りくみでさらに発展させましょう。秋の国連総会や来春のNPT再検討会議準備委員会などを節目として、国連本部に署名の山を積み上げましょう。ソーシャルメディアも活用し、平和行進などの多様な行動を草の根からひろげましょう。国連や諸国政府、平和市長会議をはじめとする自治体との共同を強めましょう。

「原爆展」や被爆体験を語る集いなどの取りくみを強め、被爆の実相を広範な人びとに伝えましょう。原爆被害の過小評価を許さず、原爆症認定制度の抜本的改善と国家補償を求めて、被爆者への援護・連帯を強めましょう。被爆二世・三世とともに、被爆体験を若い世代へと継承する取りくみを発展させましょう。

核兵器の非人道性を告発し、その禁止を求める共同声明への参加を拒否した日本政府への批判をひろげ、非核三原則の厳守とアメリカの「核の傘」からの離脱、被爆国にふさわしい役割の発揮を強く求めましょう。

ヒロシマ・ナガサキをくり返すなを決意がこめられた憲法第9条を守り生かす運動を大きく発展させましょう。沖縄はじめ米軍基地の縮小・撤去を求める運動、集団的自衛権の行使など日米軍事同盟の強化に反対するたたかいをさらに強めましょう。軍事費の削減、福祉の向上、くらしと雇用の改善、地球環境保護などを求める人びととの連帯を大きくひろげましょう。

「核の被害者をつくらせない」の願いをひとつに、原発の再稼働と輸出に反対し、原発からの脱却と自然エネルギーへの転換を求める運動との共同をいっそう強めましょう。核兵器と原発との危険な関係や放射線被害の実態について学び、知らせましょう。

被爆者とともに、若い世代とともに、いまこそ「核兵器のない世界」の扉をひらきましょう。

ノーモア・ナガサキ！ ノーモア・ヒロシマ！ ノーモア・ヒバクシャ！

長崎を最後の被爆地に——

2013年8月9日
原水爆禁止2013年世界大会・長崎